

*電波ヘリオグラフ完成・野辺山宇宙電波観測所開設 10周年記念テレフォンカード収蔵

今回も平成24年3月に天文台を去った山下芳子女史から譲られたものである。アーカイブ室新聞第607号に「野辺山宇宙電波観測所開設5周年記念テレフォンカード収蔵」という記事を書いた。今回は、それから5年「電波ヘリオグラフ完成と東京天文台野辺山宇宙電波観測所開設10周年記念」と2件を記念したテレフォンカード(写真1)である。野辺山宇宙電波観測所が開所したのは1982年である。ということはこのカードが出たのは1992年である。三鷹の地で始まった太陽電波観測は、1969年に開設された野辺山太陽電波観測所に移り、三鷹には宇宙電波グループが残り、ミリ波領域の観測装置開発に取り組んだ。そして45m宇宙電波観測所が完成して10年の時には太陽電波観測所は160MHz太陽電波干渉計から、直径80cmのパラボラアンテナ84基が東西490m、南北220mのT字型の線上に配置された17GHz、34GHz帯の電波ヘリオグラフを完成させた。写真1にはその口径80cmのアンテナ群が写っている。



写真1 ヘリオグラフ完成、宇宙電波観測所10周年の記念テレフォンカード

電波ヘリオグラフは、1990年度から2年間で、総工費18億円をかけて建設し、1992年4月に最初の太陽電波画像の撮影に成功した。現在では太陽観測の主流は人工衛星からの観測に移行しつつあるが、地上からの電波ヘリオグラフの観測と相補的に太陽を常時観測するという事業を続けている。1982年に完成した45mミリ波宇宙電波望遠鏡は稼働を始めて10年、星間空間に多くの分子スペクトルを発見するという偉業を続けていた。1969年に完成した170GHz帯の大型太陽電波干渉計は山梨県から野辺山高原に広がった大アンテナ群であった。この野辺山は日本の電波天文学の中心として現在でも活躍を続けている。

写真 2、3 は、開設当時の野辺山太陽電波観測所である。



写真 2 解説当時の野辺山太陽電波観測所



写真 3 ズラリと並んだ 170GHz 電波干渉計

写真 1 のカードには宇宙電波観測所の姿がほとんど見えない。写真 4 に現在の宇宙電波観測所の写真を掲載しておく（写真 4）。



写真 4 現在の野辺山宇宙電波観測所

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp